『誰かに出会う為に』

福島県いわき市
富岡町少年剣道団
中学３年生　　堀　川　堅　太

僕の名前は堀川堅太。12月で15才になる中学３年生だ。特技は剣道、それとゲーム。どこにでもいる、普通の中学生。そんな僕が「自分」というものの存在を深く考えさせられたのは、あの震災がきっかけだった。

僕の家は福島県双葉郡富岡町にある。そう福島第１原子力発電所の事故の警戒区域の中だ。去年の３月12日に避難をしてから一度も帰っていない。５回の引っ越しの末、今の家に住むことになった。僕は、いわゆる「避難民」だ。

それまで僕は剣道が出来ることを何とも思っていなかった。当たり前に稽古をして、試合に勝つことだけを考えていた。学校に通う事も同じ。毎日、登校すれば友達がいて、昨夜のテレビの話やゲームの話をする。それはみんなそうだろう。毎日続けてきたことはこれからも続いていく、疑問なんて持たないのが当たり前だと思う。でも、僕はそうではなかった。昨日と同じ今日と明日が必ずやってくると思っていたけれど、同じ日は来なかった。違う自分になったみたいだった。

避難をするということは、知らないところへ行くということ。友達もいない、知ってる人もいない。そんなところへ一人で行くということだ。新しい学校で新しい先生、新しい同級生。知らない道を通って行く新しい学校は、不安という言葉なんかじゃ表現しきれない。僕は原因不明の体調不良に襲われた。どうなるんだろう？どうなっていくんだろう？

でも、僕には剣道があった。剣道しか、なかった。幼稚園の年長から始めて今年で10年目になる。自分が自分でいる為には剣道しかない。すぐ剣道部に入った。みんな初めは遠巻きに見てたけど、すぐ声を掛けてくれた。知ってる顔もあった。誰も知らない土地じゃない、僕の名前を知ってくれている人もいるじゃないか？地元の剣士会の稽古にも参加させてもらった。以前、何度か対戦したことがある人もいた。みんな、少しずつ話しかけてくれた。僕の場所がちょっとずつ広がっていく気がした。先生方も声を掛けてくださった。

「頑張れよ。負けるなよ。」

一人じゃない、一人ぼっちじゃない。そう思えた。稽古を重ねるうちにすぐに友達になった。そんなみんなと稽古に励む。終わればまたみんなでおしゃべり。新しい僕の毎日。剣道が僕を支え、僕を守ってくれた。

２度目の転校先から中体連に出場した。予選を勝ち抜いてきたチームはどこも全中を狙ってきていた。一試合一試合勝ち上がり、僕のチームは決勝まで進んだ。

「あと一つ！」

と持てる力のすべてを出したが、結果は準優勝に終わった。短い、僕の夏が終わった。

試合が終わって気が付くと、周りは友達や知ってる人でいっぱいだった。今のチームのメンバーや前の学校の仲間、それから富岡で一緒だった同級生や後輩。富剣の先生、他の団の先生。その他、本当に沢山の人たち。

その時僕は思った。僕はこんなにも大勢の人に支えられていたんだということを。剣道を通してできた友達は時に倒さなければならない相手だけれど、時には自分を励まし、支え、勇気づけてくれる仲間だということを。剣道は一人では出来ない。相手がいて初めて剣道ができるのだ。僕はこの震災でこのことを心の底から実感することが出来た。

最近、マスコミを賑わすいじめや自殺のニュース、悲しいことだけど、今、僕は大きな声で言いたい。自分は一人ではないんだ。どんなに辛い時でも自分を支えてくれる人がいる。きっと、いる。大きく深呼吸をして、勇気を出して一歩、前に出よう。不安だけれどその先には絶対自分を待ってる誰かがいる。だから今、生涯剣道を続けよう、と僕はおもっている。自分を待つ誰かに出会う為に。